

発明の名称:  
血管新生関連疾患の予防又は治療用医薬組成物

無料開放特許

利用・用途・応用分野

網膜組織障害の予防・治療

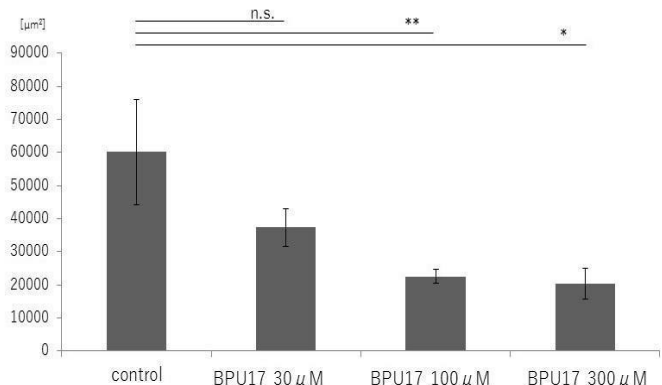
目的・課題

目は傷が治っても視機能が失われては、全く意味をなさない臓器である。網膜機能を温存するには、いかに少ないダメージで網脈絡膜の新生血管破綻もしくは眼炎症の抑制、二次的応答を制御できるかが重要である。網膜組織障害、特に網膜硝子体疾患に有効な薬物を探索することは、眼分野において重要且つ興味深い課題である。そこで網膜組織障害に有効な新たな薬物を提供することを課題とする。

解決ポイント

- ◆ 1-(シクロブチルカルボニル)-3-(4-クロロフェニル)ウレア (1-(cyclobutylcarbonyl)-3-(4-chlorophenyl)urea)、又はその薬理上、許容される塩を有効成分として含有する医薬組成物を作製する。
- ◆ 1-(シクロブチルカルボニル)-3-(4-クロロフェニル)ウレアが血管新生を抑制することを見いだした。
- ◆ 網脈絡膜障害が網膜硝子体疾患や網膜上、網膜内、又は網膜下における線維性瘢痕の形成、又は収縮であることが好ましい。

【右図: 摘出した眼球の線維化面積の測定結果】



研究概要・アピールポイント

- ◆ 1-(シクロブチルカルボニル)-3-(4-クロロフェニル)ウレア、又はその薬理上、許容される塩を有効成分として含有する医薬組成物。
- ◆ 網脈絡膜における血管新生の抑制に用いるための医薬組成物。
- ◆ 網脈絡膜における血管内皮細胞による脈絡膜新生血管形成、網膜色素上皮組織における線維化瘢痕形成を強力に抑制することにより、糖尿病網膜症、加齢黄斑変性症、網膜剥離、増殖硝子体網膜症、ぶどう膜炎、眼感染症、未熟児網膜症、新生血管黄斑症、網脈絡膜炎等の網膜障害形成及び増殖抑制を予防又は治療剤として用いる。

◆ お問い合わせ先 ◆

有限会社山口ティール・エル・オー TEL: 0836-22-9768 E-mail: tlojim@yamaguchi-u.ac.jp